

山ぼうし

第41号 平成20年 8月29日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



天才と努力

校長 兼 平 栄 補

様々な問題を孕みながら北京オリンピックが終わった。私が一番関心を持って見たのは女子ソフトボールである。決勝戦の瞬間視聴率が48%であったというから国民の関心の高さと期待の大きさがうかがえる。

なかでも上野由岐子投手の神懸かり的な熱投には大いに感動した。上野投手は、小学校3年生から男子に混じりソフトボールを始めたが、その才能は際立っており、当時の指導者達も驚くような傑出した身体能力を持っていた。しかし、小学校の時の上野投手は、その才能を賞賛されるより、朝4時から練習を重ねた努力を褒めて欲しかったそうである。全く桁外れの才能の持ち主である。だがその才能も自らに厳しい練習を課してきた結果開花したのだろう。

小学校のときに母親からプレゼントされ、今も大切にしている上野選手を支えた言霊がある。「人に負けてもいい、しかしやるべきことをやらない自分の弱さには絶対負けたくない。」（須永博士著 詩集「絶望より立つ」より）

上野投手には、本当にそれを実践している心の強さを感じる。人の何倍も努力し、まわりのみんなのために…という優しさも持ち、すごい信念と執念で勝ちとったメダルに、私達は大いに感動させてもらった。

大リーグのイチロー選手と上野投手に共通点を見出せる。

イチロー選手は小学校の頃から、バッティングセンターに通い続け、朝も五時位に起き、素振り、勉強など一日のプログラムを自分で組んで着実に実行していたそうである。誰よりも努力したからこそ、誰もできなかった記録を立てることができたのである。正に「努力に勝る、天才なし」を地でいったのである。

イチロー選手はこう語っている。

「僕を天才という人がいるが、それは違う。ただ、もし努力する才能、というのがあったら、僕にはその才能がある。」

人間には、生まれつきの天才はいない。日々の小さな努力が将来、大きな結果を生む。努力は、人間を成長させ幸福をもたらす最高の修行である。

この二人の例は、特異な例であろう。努力だけでは限界がある。要するに天才が努力を重ねた結果なのだと思う。

凡人はどうしたらよいのだろう。松下電器（パナソニック）創業者松下幸之助はこう言っている。「自分が凡人、無力であることを自覚し、人様から学びを得ようと努力する姿勢が明日の自己研磨につながるのではない。常に我以外は師である！の精神で学びを蓄え成長していきたいものである。人の話を真剣に聞かないことは、自分の人生の幸せを自ら閉ざしていることと同じである。」

努力した誰もが成功するとは限らない。しかし、成功した人は努力しているのである。

9月行事予定

9月 4日 (木)	
～9日 (火)	2期定期試験
12日 (木)	市長講話 (2年)
16日 (月)	就職試験開始
22日 (月)	特別休業日
26日 (木)	校内ロボット大会



地区PTA日程

9月 1日 (月)	津軽石、山田
2日 (火)	河南、新里・川井
3日 (水)	宮古東部・岩泉
8日 (月)	宮古中部
9日 (火)	宮古西部
11日 (木)	重茂

一日体験入学行われる

今年度は、宮古市内はもとより、北は田野畑、南は釜石までの近隣中学校15校から、145名（内女子10名）の生徒をむかえ、7月28日（月）に一日体験入学が実施されました。中学生の絶対数が減少する中、昨年度より参加者が20名ほど減少しましたが、まだまだ、本校に対する関心の高さがうかがわれる状況にあります。

体験入学の内容は次の通りです。

- 1 体験入学式（校長挨拶をはじめ、映像を使つての概要説明、太鼓部による歓迎の演奏）
- 2 各科体験
 - ① 機械科（鋳造・溶接を含む機械加工全般、課題研究作品、アイデアロボットなど）
 - ② 電気電子科（電気工事の実演、リアモーター及び鉄道模型、アイデアロボットなど）
 - ③ 建築設備科（自動制御実習実演、CADの実演、流量測定の方法など）

3 部活動見学

各学科とも在校生が中心となって学習内容を説明したり体験の指導を行います。その事により「先輩方は良い人ばかりでとても優しく教えてくださったので、心配しなくても大丈夫だ。」という感想も寄せられています。各科の補助をしてくれた生徒達は、夏休みの初日にもかかわらず、本当に立派にやってくれたと思います。このことにより、中学生には好印象を持ってもらうことが出来ました。多くの中学生が、来年度も本校を希望してくれることを期待します。

終わりに、アンケートの結果を少し紹介します。

<参加した動機について>

- 1 工業高校への入学を希望している 41.7%
- 2 まだ決めていないが、工業高校を理解し参考とするため 50.7%

<どのような学校であるか分かりましたか>

- 1 よくわかった 56.3%
- 2 少しわかった 43.7%

<自由記述>

- ・自分たちが当たり前のように使っている物でもこういう過程があって出来ていることに気づかされた。
- ・少しだけ触れるのではなく、1つのことに深く関わっているから良いと思った。
- ・さまざまな施設があって驚いた。説明の声が少し小さくて困ったところもありましたが良い体験でした。



インターハイ、ものづくり東北大会

< 柔 道 部 >

機械科3年の昆野卓浩君が、8月5日より埼玉県上尾市で開催された第57回全国高等学校柔道大会（埼玉インターハイ）へ出場した。就職活動と並行しながら岩手県の強化合宿に参加するなど、精力的に練習に励み、インターハイへ臨んだ。

対戦相手の地元埼玉県の大宮工業高校3年山幡来太選手は、昆野より20cmほど身長が高く、リーチが長い上に左組み手で、非常に戦いにくい相手だった。開始早々、相手の内股を受け、有効を先取された。昆野も相手の組み手を切りながら足技を駆使し、自分のペースにち込もうとしたが、山幡選手の払込を受け、一本負け退場した。初戦敗退という残念な結果だったが、全日本の非常に高いレベルの柔道に接し非常に貴重な経験を積むことができた。



< 電 気 工 事 部 門 >

8月1日（金）に、高校生ものづくりコンテスト2008年東北大会「電気工事部門」が宮城県大崎市で開催され、昨年度の岩手県大会で優勝した、電気電子科3年の菅原陽君が出場しました。

大会の課題は、昨年度より難易度が高いものでしたが、毎日放課後遅くまで練習に取り組んできました。結果は配線ミスがあり、入賞できませんでしたが、菅原君はケガのアクシデントにもかかわらず、最後まで頑張り抜きました。

配管作業などの仕上がりは美しく、審査員から高い評価を頂きました。今後の大きな自信に繋がると感じています。

この経験を次回大会へ活かす、菅原君に続き岩手県大会で優勝できるように生徒と一緒に頑張りたいと思います。

